

プロへの登竜門として、日本映画界を代表する監督を100名以上輩出

PFF(ぴあフィルムフェスティバル)が川喜多賞を受賞

ぴあ株式会社(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長:矢内廣、以下ぴあ)は、公益財団法人川喜多記念映画文化財団より、ぴあのCSR活動として運営する「PFF(ぴあフィルムフェスティバル)」(<http://pff.jp/>)の業績を評価していただき、第32回(2014年度)川喜多賞を受賞しましたことをお知らせいたします。

【川喜多賞とは】

川喜多賞は、故川喜多長政・かしこ夫妻、川喜多和子さんの親娘二代が半世紀以上に渡る長い間、映画を通じて国際間の友好を深め、理解を増すことに努めた業績を記念し創設されました。日本映画の芸術文化の発展に基大なる功績を残した個人又は団体、映画を通じての国際交流に顕著な功績を残した個人又は団体に、公益財団法人川喜多記念映画文化財団より贈賞されるもので、これまで黒澤明監督、市川崑監督、新藤兼人監督、大島渚監督、今村昌平監督、淀川長治氏、三船敏郎氏、仲代達矢氏など、錚々たる映画人の方々が受賞されています。

◆今回の受賞理由 (公益財団法人川喜多記念映画文化財団・報道資料より)

「自主映画の公募コンペティションを行いPFFアワードを贈賞する「PFF(ぴあフィルムフェスティバル)」は、今年で36回を迎えます。この間、PFF受賞者に対するPFFスカラシップを創設、独自に映画作家の育成に努め、海外映画祭と連携しながら、百人を超える人材を世界の映画界に送り出しました。かつて大手映画会社に依存していた映画のための人材育成に代わって、作家の主体性を尊重する自由なシステムの構築を成し遂げた工夫と努力、その素晴らしい成果に敬意を込めて贈呈することに致しました。」

【PFF(ぴあフィルムフェスティバル)について】

「映画の新しい才能の発見と育成」を目的に、世界でも極めて稀な自主映画のコンペティション部門「PFFアワード」をメインとした映画祭。1977年12月に東映大泉撮影所で開催された、映画、演劇、音楽の総合イベント「ぴあ展」での「自主製作映画展」としてスタートし、1981年には名称を「ぴあフィルムフェスティバル」と改め、以降、毎年開催しています。



◆PFFアワードについて

これまでの応募作品数は20,000本、総入選数は550本を超え、日本のみならず海外映画祭でも高い評価を得ています。才能あふれる新人監督たちの未来を切り開き、日本映画界の活性化に寄与する活動として継続しています。

今年3月の第37回日本アカデミー賞において、最優秀監督賞など計6部門を制覇した『舟を編む』の石井裕也監督をはじめ、森田芳光監督、黒沢清監督、園子温監督、中島哲也監督、橋口亮輔監督、矢口史靖監督、李相日監督など日本映画界を代表する監督たちを100名以上輩出し、プロへの登竜門として広く認知されています。先週末、第36回モスクワ国際映画祭にて最優秀作品賞・最優秀男優賞のダブル受賞を果たした『私の男』の熊切和嘉監督も、第20回PFF準グランプリ受賞者です。



石井裕也



熊切和嘉



黒沢清



森田芳光



矢口史靖

(敬称略・50音順)

◆PFF スカラシップについて

“才能の育成”をめざし、1984年よりスタートした長編映画製作援助システムです。PFFアワード受賞監督を対象に次回作の企画コンペを行い、毎年1名を選出して、2年に渡り企画開発から製作、配給まで自主映画監督のデビューを一貫してプロデュースするもので、世界でも類を見ない取り組みとして評価されています。『バーバー吉野』(’03/監督:荻上直子)、『運命じゃない人』(’04/監督:内田けんじ)、『川の底からこんにちは』(’09/監督:石井裕也)など、22本の作品が完成しています。

◆海外映画祭への出品

さらに、より多くの観客との出会いと、得難い体験を求めて、PFFアワード入選作品、PFFスカラシップ作品並びに、監督を積極的に海外に紹介しています。これまでに、50に及ぶ国・地域の270を超える映画祭に、延べ140程の作品を出品しています。最近では、PFFアワード2013で審査員特別賞を受賞した『山守クリップ工場の辺り』(監督:池田暁)が世界の若い監督を対象とした、バンクーバー国際映画祭、ロッテルダム国際映画祭の2つの映画祭にてグランプリを受賞しました。

今回、栄えある川喜多賞の受賞を契機とし、改めて国内において才能ある映画監督の「発見」と「育成」、海外への「紹介」を通じ、日本映画の活性化と映画を通じた国際交流に努めてまいります。

【第36回PFF(ぴあフィルムフェスティバル)の開催について】

なお、次回のPFF(ぴあフィルムフェスティバル)が、9月13日(土)～25日(木)、東京国立近代美術館フィルムセンターにて開催の予定です。詳細は随時PFF公式ホームページにて発表いたします。

第36回PFF(ぴあフィルムフェスティバル)ホームページ <http://pff.jp/36th/>

(本件に関するお問い合わせ)

ぴあ株式会社 広報担当/小林、小澤、大木 TEL:03-5774-5294

PFF事務局/森本 TEL:03-5774-5296

FAX:03-5774-5394 E-mail:koho@pia.co.jp